

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	八木 佐也香 【理学専攻 平成25年度生】	<p>本論文では、複合型時系列データの可視化に関する3手法を提案している。具体的には、水防災データを題材とした地理情報と時系列情報の複合型可視化手法、タグを含む時系列実数値情報の折れ線グラフベースの可視化手法、Storylineを適用した時系列実数値情報のクラスタ構造の可視化手法、の3手法を提案している。</p>
論文題目	詳細度制御を適用した複合型時系列データの可視化	<p>学位論文審査は4回にわたって開催された。本論文では申請者が、複合型時系列データ可視化という課題について網羅的に多くの問題を解決しており、当該分野の第一人者たる研究成果をあげたことを示している。また本論文の提案内容は、査読付き論文誌（またはそれと同等な書籍）合計3件に掲載され、国際会議での受賞なども経験している。これらの十分な研究成果を踏まえて、以下の日程で学位論文審査を実施した。</p>
審査委員	(主査) 教授 伊藤 貴之	<p>第1回は平成27年12月16日に開催した。提出された論文の内容および問題点を洗い出し、そして第2回目以降の審査方法（申請者本人を呼び出しての審査方法）について審査委員間で合意をとった。</p>
	教授 小林 一郎	<p>第2回は平成28年1月5日、第3回は平成28年2月4日に開催した。いずれも学位申請者による60分程度の研究内容説明の後、各種の質疑を取り交わし、論文内容の修正や改善について学位申請者に指示を出した。</p>
	教授 椎尾 一郎	<p>そしてその後、平成28年2月26日に、公開発表会および最終試験を実施した。最終試験では、公開審査会にて研究内容を聴講した審査委員および出席者から、研究内容全般にわたって幅広く質問された。学位申請者は全ての質問に対して的確に回答し、本論文の研究内容の完成度の高さおよび、本研究分野における見識の広さと深さを示した。以上の結果から審査委員は、最終試験を合格と判定した。</p>
	教授 吉田 裕亮	<p>第4回は平成28年2月26日、公開発表会および最終試験の後に開催した。公開発表会および最終試験の内容を踏まえて、論文内容を最終確認した。</p>
	准教授 齋藤 豪	<p>以上の結果から本審査委員会は、本論文が人間文化創成科学研究科の学位、博士（理学）Ph. D. in Science の学位を受けるに相応しいと判断した。</p>
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（可・<input checked="" type="radio"/>否）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;"><input checked="" type="radio"/>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;"><input checked="" type="radio"/>エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	

